

ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース／Bコース

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第17期(決算日2020年11月18日)

作成対象期間(2019年11月19日～2020年11月18日)

< Aコース >

第17期末(2020年11月18日)	
基準価額	26,336円
純資産総額	28,050百万円
第17期	
騰落率	31.8%
分配金(税込み)合計	1,300円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

< Bコース >

第17期末(2020年11月18日)	
基準価額	28,991円
純資産総額	30,332百万円
第17期	
騰落率	26.3%
分配金(税込み)合計	1,500円

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界主要市場のバイオテクノロジー関連企業の株式に実質的に投資を行い、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。

ここに、当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

< 運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法 >

右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択

⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号



サポートダイヤル 0120-753104
(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

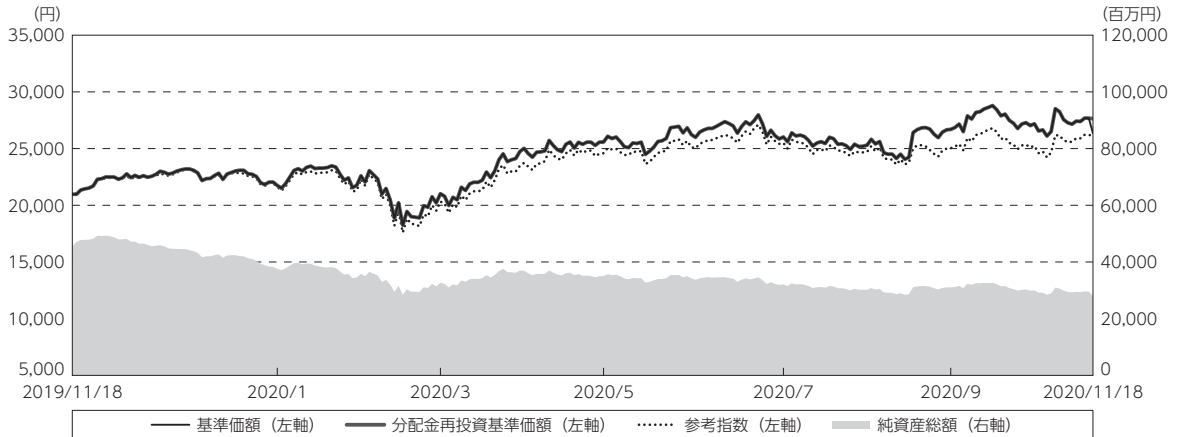
ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

< Aコース >

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2019年11月19日～2020年11月18日)



期首：20,974円

期末：26,336円 (既払分配金 (税込み) : 1,300円)

騰落率： 31.8% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首 (2019年11月18日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、ナスダック・バイオテック指数 (円ヘッジベース) です。詳細は4ページをご参照ください。参考指数は、作成期首 (2019年11月18日) の値が基準価額と同一となるように計算しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首20,974円から期末26,336円となりました。

- (上昇) スイス大手製薬企業が相次ぎ米国のバイオテクノロジー企業の買収を発表したこと、FDA (米食品医薬品局) による新薬承認報道も相次いだこと、ASH (米国血液学会) 年次総会においてバイオ各社の最新治験データの発表が続いたこと、がん治療薬の開発を行っているバイオテクノロジー企業に対する大手製薬企業の買収が相次いだこと
- (下落) 米大統領選挙レースにおいて、健康保険改革に意欲的なサンダース民主党候補者の支持率が上昇したこと、中国で発生した新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されたこと、その後感染者・死者数が世界各地で増加したこと、欧米各国で非常事態宣言が出され、世界的に景気悪化懸念が強まったこと
- (上昇) ギリアド・サイエンシズ (米国) の抗ウイルス治験薬レムデシビルを筆頭に、新型コロナワクチンの開発期待が高まったこと、新型コロナウイルスの感染拡大「第2波」の懸念の高まりから、ワクチン開発期待が高い企業などが買われたこと

- (下落) 米中对立激化懸念が急速に高まったこと、トランプ米大統領が薬価抑制関連の大統領令に署名すると報道されたこと、開発中の血友病治療薬がFDAの承認を得られなかったバイオジェン（米国）株が下落したこと、開発中の関節リウマチ治療薬がFDAの承認を得られなかったギリアド・サイエンシズ株が下落したこと
- (上昇) ギリアド・サイエンシズが同業他社を買収することが伝わり、市場で中小型バイオ株への買収期待が強まったこと、7-9月期決算で予想を上回るバイオ企業が相次いだこと、米議会選挙で上院は共和党が過半数を押さえる見通しとなり、民主党の「ブルーウェーブ」シナリオが崩れ薬価改定などの政策リスクが後退するとの期待が高まったこと

1万口当たりの費用明細

(2019年11月19日～2020年11月18日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	506 (266) (213) (27)	2.090 (1.100) (0.880) (0.110)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等 購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等 ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売買委託手数料 (株式)	12 (12)	0.050 (0.050)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株式)	1 (1)	0.003 (0.003)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	4 (4) (1) (0)	0.018 (0.015) (0.003) (0.000)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 信託事務の処理に要するその他の諸費用
合計	523	2.161	
期中の平均基準価額は、24,203円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

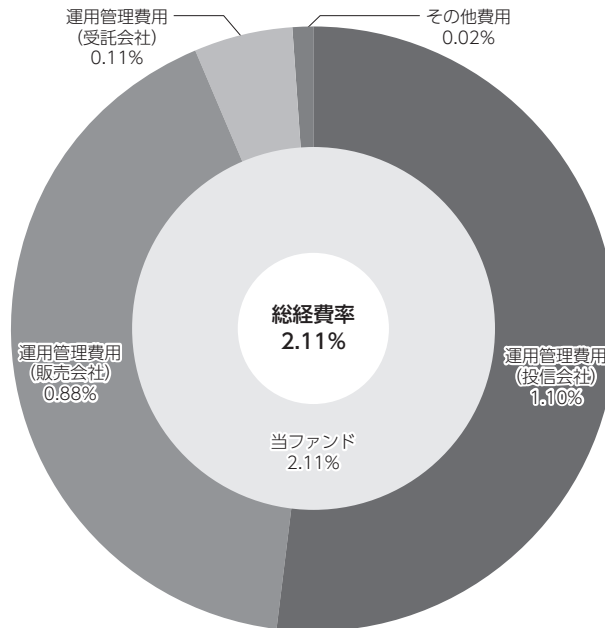
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.11%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

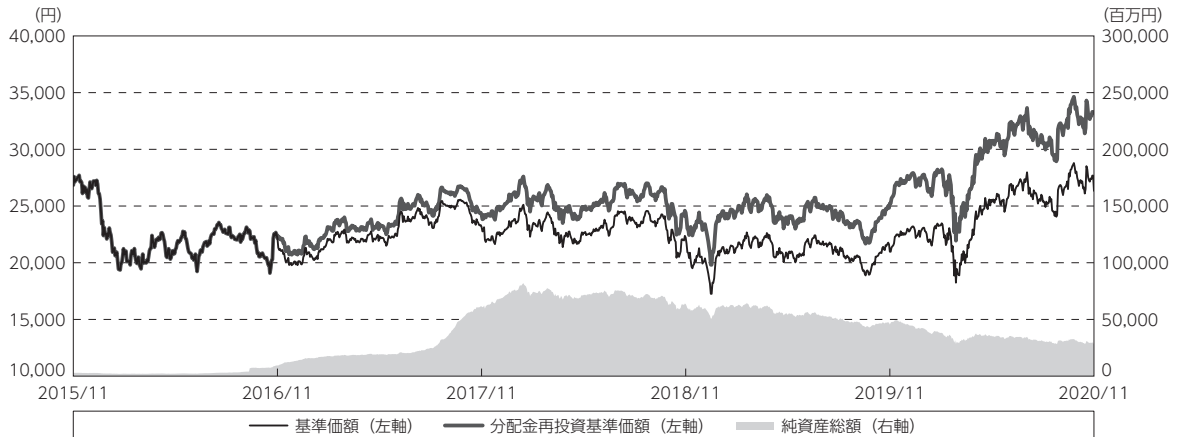
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2015年11月18日～2020年11月18日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。2015年11月18日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2015年11月18日 決算日	2016年11月18日 決算日	2017年11月20日 決算日	2018年11月19日 決算日	2019年11月18日 決算日	2020年11月18日 決算日
基準価額 (円)	26,844	21,329	22,010	20,171	20,974	26,336
期間分配金合計(税込み) (円)	—	1,000	1,100	900	1,000	1,300
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 16.8	8.4	△ 4.3	8.9	31.8
参考指数騰落率 (%)	—	△ 13.4	6.1	△ 1.0	3.0	24.4
純資産総額 (百万円)	2,792	9,401	59,514	57,653	45,496	28,050

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

*参考指数(=ナスダック・バイオテック指数(円ヘッジベース))は、ナスダック・バイオテック指数(US\$ベース)を当社が独自にヘッジコストを考慮して円換算したものです。
(出所) ブルームバーグ

投資環境

(2019年11月19日～2020年11月18日)

期中の米国株式市場は、年明けに新型コロナウイルスの感染拡大による世界景気の低迷懸念を嫌気する形で一時急落する動きとなりました。しかし、各国政府・中央銀行による景気刺激策や低金利政策などを背景に、その後持ち直す展開となり、また、新型コロナウイルス向けワクチン開発への期待も加わり、期末にかけ反発基調を強め、前期末比でプラスとなりました。

為替市場では、米中貿易協議の進展期待などを背景に、ドル円レートは期初の108円台から、一時は112円台まで上昇（円安）しました。しかし、2月半ば以降は新型コロナウイルスの感染が世界全体に拡大したことなどを受け、102円台まで急落（円高）する場面も見られました。しかし、その後は米国や欧州で大型経済対策が成立したことや、新型コロナウイルスの感染拡大がピークを越えたとの見方から投資家のリスク回避姿勢が弱まりドル円は反発（円安）しました。4月以降は、米中対立が再燃したことや、米国の低金利政策が長期化するとの観測が強まったほか、新型コロナウイルスの感染再拡大懸念も強まりドルは下落基調となり、期末時点では104円台まで円高（ドル安）が進みました。

当ファンドのポートフォリオ

(2019年11月19日～2020年11月18日)

【ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース】は、主要投資対象である【ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド】 受益証券を高位に組み入れました。

【ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド】**・株式組入比率**

期を通じておおむね高位を維持しました。

・期中の主な動き

- (1) 世界のバイオテクノロジー関連企業の中から高い成長が期待される企業の株式を医学・薬学的視点から調査、評価して投資銘柄を選定しました。
- (2) 大型株と中型株を中心に、画期的、かつニーズが高く将来性が期待される薬品や既存薬にない特徴を有した薬品で、開発の最終段階に近づいている企業に注目しました。また、バイオテクノロジー業界内で多くの新興企業の中から銘柄を発掘するなど、厳選した企業に対する投資を行ってまいりました。
- (3) 新型コロナウイルスの感染拡大が世界経済に大きな影響を与える中、バイオテクノロジー関連企業を含む医薬品企業による治療薬やワクチンの開発動向に注目が集まり、当ファンドでも関連銘柄に注目してまいりました。

【ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース】**・株式組入比率**

実質株式組入比率は、期を通じておおむね高位を維持しました。

・為替ヘッジ

当ファンドの運用の基本方針に従い、実質外貨建て資産に対して対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りました。

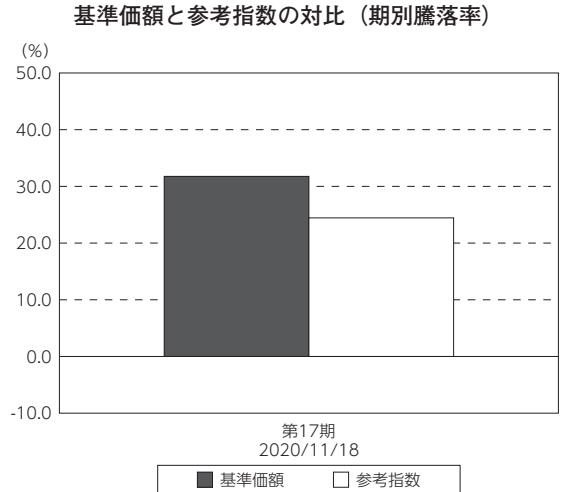
当ファンドのベンチマークとの差異

(2019年11月19日～2020年11月18日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数としているナスダック・バイオテック指数（円ヘッジベース）の24.4%の上昇に対し、基準価額は31.8%の上昇となりました。主なプラスの差異要因としては、ギリアド・サイエンシズに買収された米国の画像診断・治療機器メーカー株や、米国の大手製薬企業に買収された米国の循環器系内科向け精密医療会社株などをオーバーウェイト（参考指数と比べ高めの投資比率）としていたことなどが挙げられます。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。
 (注) 参考指数は、ナスダック・バイオテック指数（円ヘッジベース）です。

分配金

(2019年11月19日～2020年11月18日)

基準価額水準などを勘案し、1万口当たり1,300円の収益分配を行いました。なお、留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

項目	第17期	
	2019年11月19日～2020年11月18日	
当期分配金	1,300	
(対基準価額比率)	4.704%	
当期の収益	1,300	
当期の収益以外	-	
翌期繰越分配対象額	16,335	

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド]

・投資環境

バイオ医薬品セクターについては、短期的には新型コロナウイルスの感染拡大と米国大統領選挙が株価に影響を与える重要な話題となっています。新型コロナウイルスに関しては、一部の製薬企業やバイオ医薬品企業が急ピッチで開発を行っており、比較的短期間に効果のある治療法が発見されるものとみえています。当面は、抗体治療の治験結果と、ワクチン開発の最終段階の治験結果発表が待たれる状況ですが、2020年末もしくは2021年初めにワクチン承認の可能性が高まった場合には、どのように配分するのかが新たなトピックとして浮上するものと予想します。

注目されていた米国の選挙については、民主党のバイデン候補が大統領となり、連邦議会では上院が共和党、下院が民主党のねじれ議会が続く公算が大きくなったことは、最善のシナリオと考えます。バイデン大統領の誕生により、混沌とした状況が改善し、科学や規制当局への信頼性を高め、科学分野への政府支出を増やす可能性があります。一方、ねじれ状態の連邦議会は、超党派の支援がなければ法律を制定することが難しく、法案が急進的なものではなく、より穏健なものになることを意味しています。今後は、民主党、共和党の超党派で進めているメディケア（高齢者向けの医療保険プログラム）の改革の動きが医薬品の価格の引き下げにつながる可能性があります。診療件数や処方箋件数などの面では量的増加につながり、全体的にはポジティブに働くと考えます。

・運用方針

当ファンドは引き続き、堅固な事業基盤を有し、優秀な経営陣を擁する企業を厳選し、高いイノベーション能力と強い戦略的展望のある企業を選定することが、投資家の利益につながると考えます。綿密なファンダメンタルズ（基礎的条件）分析と科学面および臨床データの評価に加え、未だ満たされていない医療ニーズを満たすような薬や新薬候補を有する企業に注目していく方針です。

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Aコース]

主要投資対象である [ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド] 受益証券を高位に組み入れ、実質外貨建て資産については為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを目指します。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願いたします。

お知らせ

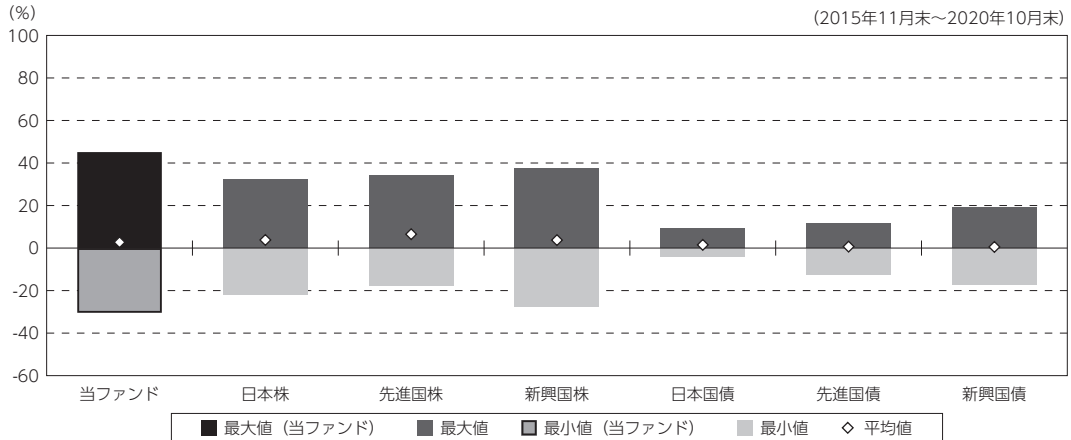
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2003年11月19日から2023年11月20日までです。	
運用方針	世界主要市場のバイオテクノロジー関連企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。世界のバイオテクノロジー関連企業の中から高い成長が期待される企業の株式を医学・薬学的視点から調査、評価して投資銘柄を選定します。 実質組入外貨建て資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを目指します。	
主要投資対象	ワールド・ゲノム テクノロジー・オープン A コ ー ス	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	世界主要市場のバイオテクノロジー関連企業の株式を主要投資対象とします。
運用方法	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界主要市場のバイオテクノロジー関連企業の株式に実質的に投資を行い、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。	
分配方針	毎決算時に、原則として繰越分を含めた配当等収益と売買益等から、基準価額の水準等を勘案して分配します。 留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	45.1	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
最小値	△ 30.4	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	2.7	3.8	6.5	3.7	1.5	0.7	0.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2015年11月から2020年10月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

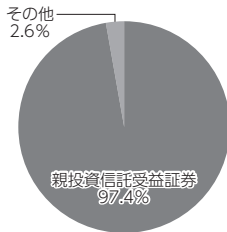
組入資産の内容

(2020年11月18日現在)

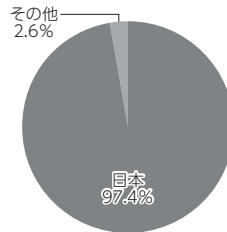
○組入上位ファンド

銘柄名	第17期末
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	97.4%
組入銘柄数	1銘柄

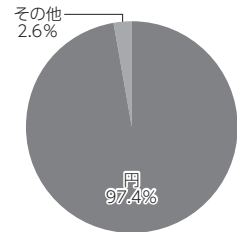
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第17期末
	2020年11月18日
純資産総額	28,050,256,642円
受益権総口数	10,650,944,361口
1万口当たり基準価額	26,336円

(注) 期中における追加設定元本額は2,642,064,961円、同解約元本額は13,682,490,748円です。

< Bコース >

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2019年11月19日～2020年11月18日)



期首：24,147円

期末：28,991円 (既払分配金 (税込み) : 1,500円)

騰落率： 26.3% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首 (2019年11月18日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、ナスダック・バイオテック指数 (円換算ベース) です。詳細は14ページをご参照ください。参考指数は、作成期首 (2019年11月18日) の値が基準価額と同一となるように計算しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首24,147円から期末28,991円となりました。

- (上昇) スイス大手製薬企業が相次ぎ米国のバイオテクノロジー企業の買収を発表したこと、FDA (米食品医薬品局) による新薬承認報道も相次いだこと、ASH (米国血液学会) 年次総会においてバイオ各社の最新治験データの発表が続いたこと、がん治療薬の開発を行っているバイオテクノロジー企業に対する大手製薬企業の買収が相次いだこと
- (下落) 米大統領選挙レースにおいて、健康保険改革に意欲的なサンダース民主党候補者の支持率が上昇したこと、中国で発生した新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されたこと、その後感染者・死者数が世界各地で増加したこと、欧米各国で非常事態宣言が出され、世界的に景気悪化懸念が強まったこと、為替市場で一時102円台までドル安 (円高) が進んだこと
- (上昇) ギリアド・サイエンシズ (米国) の抗ウイルス治療薬レムデシビルを筆頭に、新型コロナワクチンの開発期待が高まったこと、新型コロナウイルスの感染拡大「第2波」の懸念の高まりから、ワクチン開発期待が高い企業などが買われたこと、為替市場で一時111円台までドル高 (円安) となったこと

- (下落) 米中对立激化懸念が急速に高まったこと、トランプ米大統領が薬価抑制関連の大統領令に署名すると報道されたこと、開発中の血友病治療薬がFDAの承認を得られなかったバイオジェン（米国）株が下落したこと、開発中の関節リウマチ治療薬がFDAの承認を得られなかったギリアド・サイエンシズ株が下落したこと
- (上昇) ギリアド・サイエンシズが同業他社を買収することが伝わり、市場で中小型バイオ株への買収期待が強まったこと、7-9月期決算で予想を上回るバイオ企業が相次いだこと、米議会選挙で上院は共和党が過半数を押さえる見通しとなり、民主党の「ブルーウェーブ」シナリオが崩れ薬価改定などの政策リスクが後退するとの期待が高まったこと

1万口当たりの費用明細

(2019年11月19日～2020年11月18日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
	円	%	
(a) 信託報酬	575	2.090	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(302)	(1.100)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(販売会社)	(242)	(0.880)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(受託会社)	(30)	(0.110)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売買委託手数料	14	0.051	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(14)	(0.051)	
(c) 有価証券取引税	1	0.003	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(1)	(0.003)	
(d) その他費用	5	0.018	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	(4)	(0.015)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(1)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	595	2.162	
期中の平均基準価額は、27,489円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

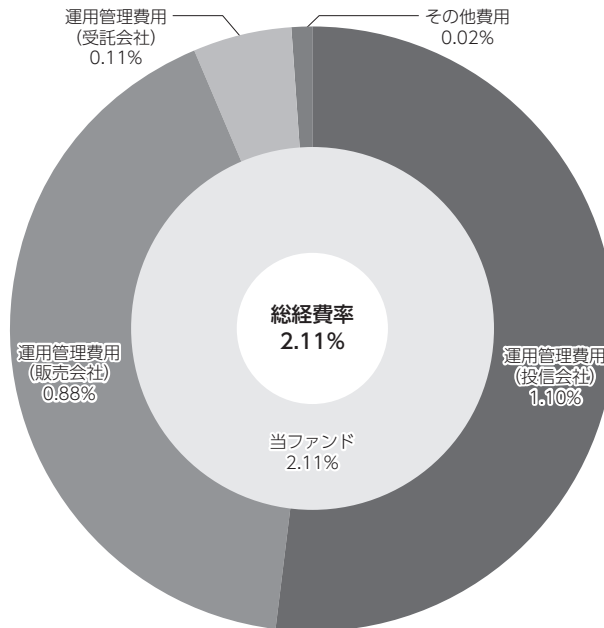
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.11%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

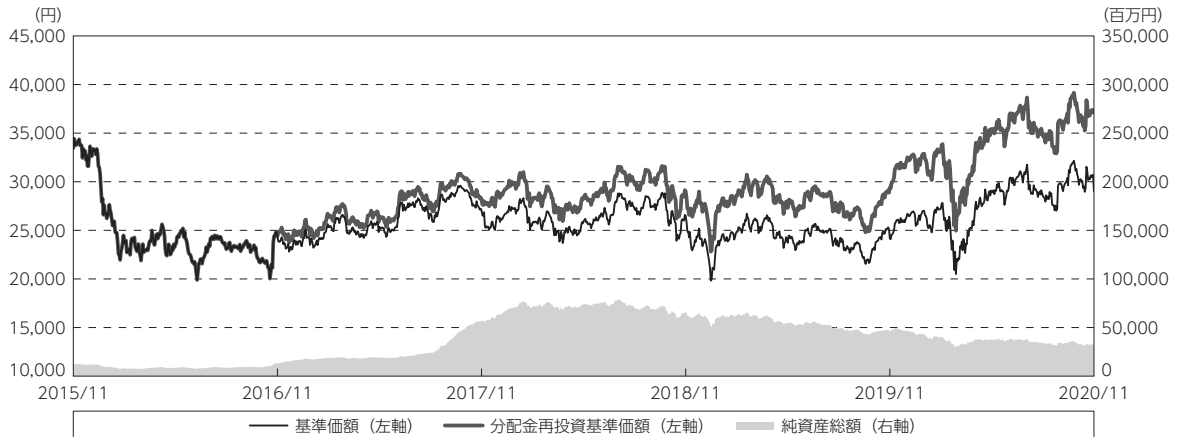
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2015年11月18日～2020年11月18日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。2015年11月18日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2015年11月18日 決算日	2016年11月18日 決算日	2017年11月20日 決算日	2018年11月19日 決算日	2019年11月18日 決算日	2020年11月18日 決算日
基準価額 (円)	33,447	23,881	25,377	23,684	24,147	28,991
期間分配金合計(税込み) (円)	—	1,000	1,300	1,200	1,400	1,500
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 25.6	11.7	△ 1.9	7.9	26.3
参考指数騰落率 (%)	—	△ 21.8	10.0	1.9	2.3	20.6
純資産総額 (百万円)	11,791	12,791	54,555	59,150	45,226	30,332

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

*参考指数 (=ナスダック・バイオテック指数 (円換算ベース)) は、ナスダック・バイオテック指数 (US \$ベース) を当社が独自に円換算したものです。
(出所) ブルームバーグ

投資環境

(2019年11月19日～2020年11月18日)

期中の米国株式市場は、年明けに新型コロナウイルスの感染拡大による世界景気の低迷懸念を嫌気する形で一時急落する動きとなりました。しかし、各国政府・中央銀行による景気刺激策や低金利政策などを背景に、その後持ち直す展開となり、また、新型コロナウイルス向けワクチン開発への期待も加わり、期末にかけ反発基調を強め、前期末比でプラスとなりました。

為替市場では、米中貿易協議の進展期待などを背景に、ドル円レートは期初の108円台から、一時は112円台まで上昇（円安）しました。しかし、2月半ば以降は新型コロナウイルスの感染が世界全体に拡大したことなどを受け、102円台まで急落（円高）する場面も見られました。しかし、その後は米国や欧州で大型経済対策が成立したことや、新型コロナウイルスの感染拡大がピークを越えたとの見方から投資家のリスク回避姿勢が弱まりドル円は反発（円安）しました。4月以降は、米中対立が再燃したことや、米国の低金利政策が長期化するとの観測が強まったほか、新型コロナウイルスの感染再拡大懸念も強まりドルは下落基調となり、期末時点では104円台まで円高（ドル安）が進みました。

当ファンドのポートフォリオ

(2019年11月19日～2020年11月18日)

【ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Bコース】は、主要投資対象である【ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド】 受益証券を高位に組み入れました。

【ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド】**・株式組入比率**

期を通じておおむね高位を維持しました。

・期中の主な動き

- (1) 世界のバイオテクノロジー関連企業の中から高い成長が期待される企業の株式を医学・薬学的視点から調査、評価して投資銘柄を選定しました。
- (2) 大型株と中型株を中心に、画期的、かつニーズが高く将来性が期待される薬品や既存薬にない特徴を有した薬品で、開発の最終段階に近づいている企業に注目しました。また、バイオテクノロジー業界内で多くの新興企業の中から銘柄を発掘するなど、厳選した企業に対する投資を行ってまいりました。
- (3) 新型コロナウイルスの感染拡大が世界経済に大きな影響を与える中、バイオテクノロジー関連企業を含む医薬品企業による治療薬やワクチンの開発動向に注目が集まり、当ファンドでも関連銘柄に注目してまいりました。

【ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Bコース】**・株式組入比率**

実質株式組入比率は、期を通じておおむね高位を維持しました。

・為替ヘッジ

当ファンドの運用の基本方針に従い、為替ヘッジを行いませんでした。

当ファンドのベンチマークとの差異

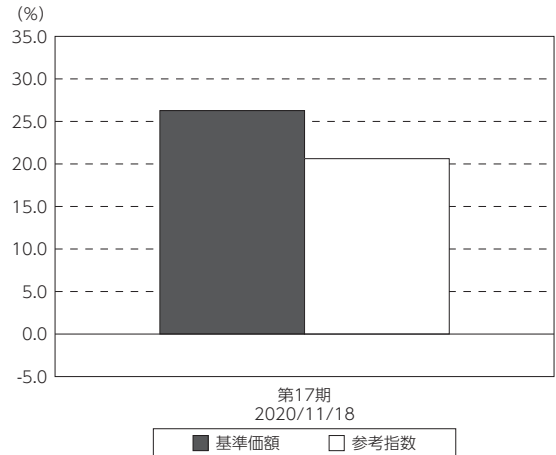
(2019年11月19日～2020年11月18日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数としているナスダック・バイオテック指数(円換算ベース)の20.6%の上昇に対し、基準価額は26.3%の上昇となりました。主なプラスの差異要因としては、ギリアド・サイエンシズに買収された米国の画像診断・治療機器メーカー株や、米国の大手製薬企業に買収された米国の循環器系内科向け精密医療会社株などをオーバーウェイト(参考指数と比べ高めの投資比率)としていたことなどが挙げられます。

基準価額と参考指数の対比 (期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 参考指数は、ナスダック・バイオテック指数(円換算ベース)です。

分配金

(2019年11月19日～2020年11月18日)

基準価額水準などを勘案し、1万口当たり1,500円の収益分配を行いました。なお、留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

項目	第17期	
	2019年11月19日～2020年11月18日	
当期分配金	1,500	
(対基準価額比率)	4.919%	
当期の収益	1,500	
当期の収益以外	-	
翌期繰越分配対象額	18,991	

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド]

・投資環境

バイオ医薬品セクターについては、短期的には新型コロナウイルスの感染拡大と米国大統領選挙が株価に影響を与える重要な話題となっています。新型コロナウイルスに関しては、一部の製薬企業やバイオ医薬品企業が急ピッチで開発を行っており、比較的短期間に効果のある治療法が発見されるものとみえています。当面は、抗体治療の治験結果と、ワクチン開発の最終段階の治験結果発表が待たれる状況ですが、2020年末もしくは2021年初めにワクチン承認の可能性が高まった場合には、どのように配分するのかが新たなトピックとして浮上するものと予想します。

注目されていた米国の選挙については、民主党のバイデン候補が大統領となり、連邦議会では上院が共和党、下院が民主党のねじれ議会が続く公算が大きくなったことは、最善のシナリオと考えます。バイデン大統領の誕生により、混沌とした状況が改善し、科学や規制当局への信頼性を高め、科学分野への政府支出を増やす可能性があります。一方、ねじれ状態の連邦議会は、超党派の支援がなければ法律を制定することが難しく、法案が急進的なものではなく、より穏健なものになることを意味しています。今後は、民主党、共和党の超党派で進めているメディケア（高齢者向けの医療保険プログラム）の改革の動きが医薬品の価格の引き下げにつながる可能性があります。診療件数や処方箋件数などの面では量的増加につながり、全体的にはポジティブに働くと考えます。

・運用方針

当ファンドは引き続き、堅固な事業基盤を有し、優秀な経営陣を擁する企業を厳選し、高いイノベーション能力と強い戦略的展望のある企業を選定することが、投資家の利益につながると考えます。綿密なファンダメンタルズ（基礎的条件）分析と科学面および臨床データの評価に加え、未だ満たされていない医療ニーズを満たすような薬や新薬候補を有する企業に注目していく方針です。

[ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン Bコース]

主要投資対象である [ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド] 受益証券を高位に組み入れ、実質外貨建て資産については為替ヘッジを行わない方針です。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、よろしく願いいたします。

お知らせ

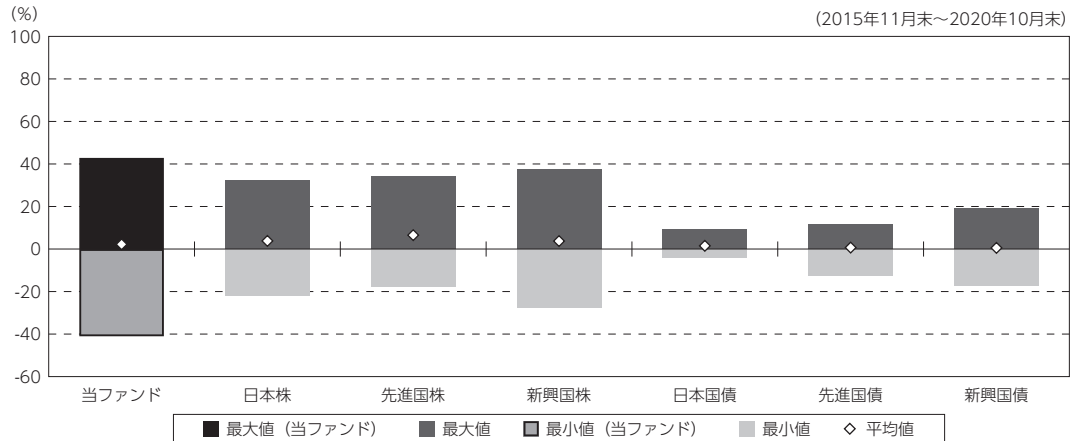
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2003年11月19日から2023年11月20日までです。	
運用方針	世界主要市場のバイオテクノロジー関連企業の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。世界のバイオテクノロジー関連企業の中から高い成長が期待される企業の株式を医学・薬学的視点から調査、評価して投資銘柄を選定します。 実質組入外貨建て資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要投資対象	ワールド・ゲノム テクノロジー・オープン Bコース	ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	世界主要市場のバイオテクノロジー関連企業の株式を主要投資対象とします。
運用方法	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界主要市場のバイオテクノロジー関連企業の株式に実質的に投資を行い、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。	
分配方針	毎決算時に、原則として繰越分を含めた配当等収益と売買益等から、基準価額の水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	42.9	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
最小値	△ 41.0	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	2.2	3.8	6.5	3.7	1.5	0.7	0.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2015年11月から2020年10月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

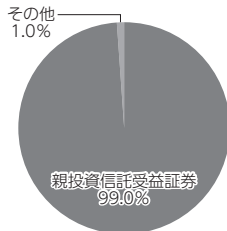
組入資産の内容

(2020年11月18日現在)

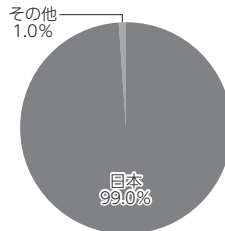
○組入上位ファンド

銘柄名	第17期末
ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド	99.0%
組入銘柄数	1銘柄

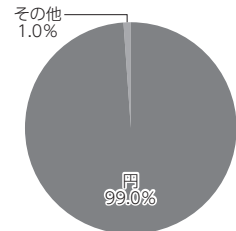
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第17期末
	2020年11月18日
純資産総額	30,332,097,855円
受益権総口数	10,462,444,241口
1万口当たり基準価額	28,991円

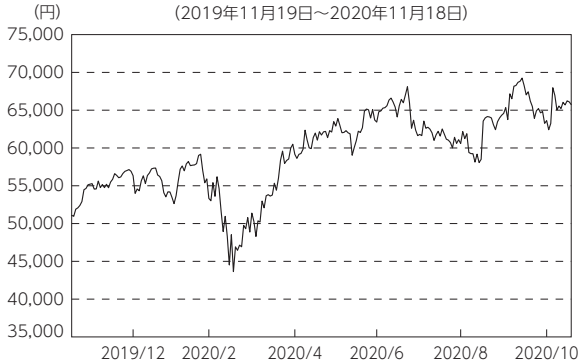
(注) 期中における追加設定元本額は3,059,397,751円、同解約元本額は11,326,744,212円です。

組入上位ファンドの概要

ワールド・ゲノムテクノロジー・オープン マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2019年11月19日～2020年11月18日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	30 (30)	0.051 (0.051)
(b) 有価証券取引税 (株式)	2 (2)	0.003 (0.003)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	9 (9) (0)	0.015 (0.015) (0.000)
合計	41	0.069

期中の平均基準価額は、58,726円です。

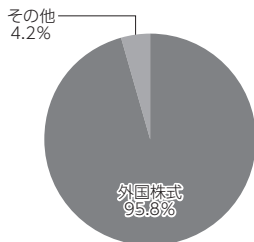
(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

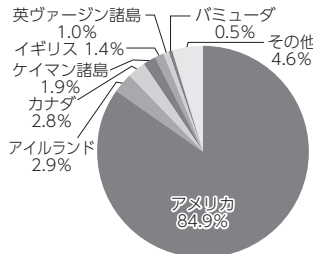
(2020年11月18日現在)

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 AMGEN INC	バイオテクノロジー	米ドル	アメリカ	5.5%
2 VERTEX PHARMACEUTICALS	バイオテクノロジー	米ドル	アメリカ	5.3
3 SEAGEN INC	バイオテクノロジー	米ドル	アメリカ	4.6
4 BIOGEN INC	バイオテクノロジー	米ドル	アメリカ	4.6
5 ALEXION PHARMACEUTICALS INC	バイオテクノロジー	米ドル	アメリカ	4.4
6 REGENERON PHARMACEUTICALS	バイオテクノロジー	米ドル	アメリカ	4.4
7 GILEAD SCIENCES INC	バイオテクノロジー	米ドル	アメリカ	3.8
8 BIOMARIN PHARMACEUTICAL INC	バイオテクノロジー	米ドル	アメリカ	3.3
9 NEUROCRINE BIOSCIENCES INC	バイオテクノロジー	米ドル	アメリカ	3.3
10 HORIZON THERAPEUTICS PLC	医薬品	米ドル	アイルランド	2.9
組入銘柄数			58銘柄	

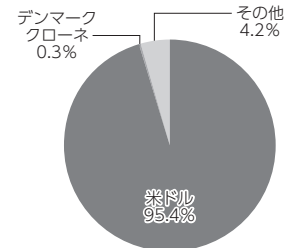
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。
 (注) 国(地域)および国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、株式会社東京証券取引所 (㈱東京証券取引所) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(㈱東京証券取引所) が有しています。なお、本商品は、(㈱東京証券取引所) により提供、保証又は販売されるものではなく、(㈱東京証券取引所) は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

○MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)、MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債の知的財産権は、野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI 国債を用いて行われる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。

○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

「JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)」(ここでは「指数」とよびます) についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスを法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co. 及びその子会社 (以下、JPM) がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPM やその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持って、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受、プレースメント、エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。

米国の J.P. Morgan Securities LLC (ここでは「JPMSLLC」と呼びます) (「指数スポンサー」) は、指数に関する証券、金融商品または取引 (ここでは「プロダクト」と呼びます) についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。

JPMSLLC は NASD, NYSE, SIPC の会員です。JPMorgan は JP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC., またはその関係会社が投資銀行業務を行う際に使用する名称です。

(出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他)